

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公表番号】特表 2006-513753(P2006-513753A)
【公表日】平成 18 年 4 月 27 日 (2006.4.27)
【年通号数】公開・登録公報 2006-017
【出願番号】特願 2004-567744(P2004-567744)
【国際特許分類】

A 6 1 F 2/36 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/36

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 28 日 (2006.3.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

大腿骨に挿入される幹部 (12) を備え、該幹部 (12) は転子領域 (4) にあることが予定される転子表面部分を有し、さらに骨の成長を促進するコーティングを有する股関節用義足において、

上記表面部分に専らオステオインダクティブ物質を有することを特徴とする股関節用義足。

【請求項 2】

上記オステオインダクティブ物質が、上記転子領域 (4) において、上記幹部 (12) から突出する転子突出部 (13) 上に専ら与えられることを特徴とする請求項 1 記載の股関節用義足。

【請求項 3】

上記オステオインダクティブ物質が、コーティングにより形成されるか、若しくはコーティングの一部であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の股関節用義足。

【請求項 4】

上記オステオインダクティブ物質が、ビスフォスフォネート若しくは B M P を含むことを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の股関節用義足。

【請求項 5】

上記オステオインダクティブ物質を含む、義足の転子表面の少なくとも一部が、多孔質であることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の股関節用義足。

【請求項 6】

上記オステオインダクティブ物質が、横方向 (19) 側に対してアンダーカットされた、義足の転子表面の表面部分に被覆されることを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の股関節用義足。

【請求項 7】

上記義足の転子表面が、オステオインダクティブコーティング (16) が設けられた、腹面及び背面を備え、上記腹面及び背面が、互いから、前後方向に、6 mm 以上、好ましくは 9 mm 以上離れていることを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の股関節用義足。

【請求項 8】

上記突出部（１３）が、挿入方向にくさび形に形成され、上記義足にあてがわれたヤスリが、上記突出部の領域においてより小さい体積を有することを特徴とする請求項２記載の股関節用義足。

【請求項９】

上記突出部（１３）が、上記幹部から取り外すことができることを特徴とする請求項２又は８記載の股関節用義足。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

骨に挿入される義足が、図１において破線で示されている。そして、図２及び３において実線で示されている。この義足は、頭部１０、頸部１１及び幹部１２からなる。突出部１３が、これらから骨の転子領域４の方向へ突出している。この突出部１３に孔１４を設ける。この孔１４は腹面方向に向いた表面領域を形成している。これらは、横方向１９側に対してアンダーカットされている。これらの孔に成長する骨物質は、アンダーカットの表面をつかみ、それにより、義足から、骨の転子領域まで引っ張り応力を伝達することに貢献する。突出部及びアンダーカット表面を、他の既知の方法により設計してもよい。例えば、突出部を刀の形状に形成しても良いし、又は湾曲した形状に形成しても良い。孔の代わりに、アンダーカット表面を形成するためのより大きなアパーチャー若しくはリブを設けても良い。通常的环境において、正しく挿入された後、転子領域４にある義足のそれらのパーツは、義足の転子表面若しくは転子部分として設計される。これらは、特に突出部１３を含む。

【手続補正３】

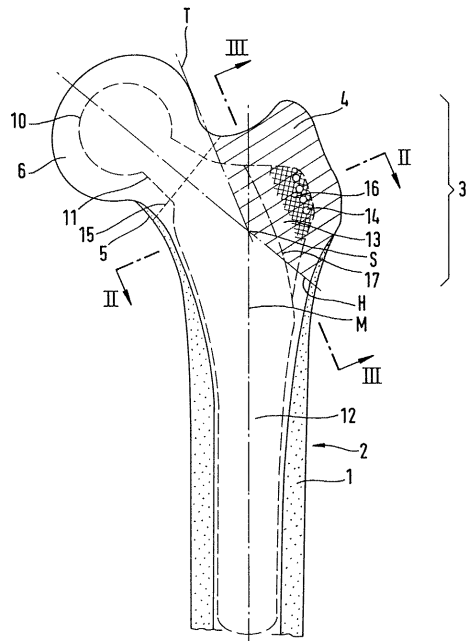
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

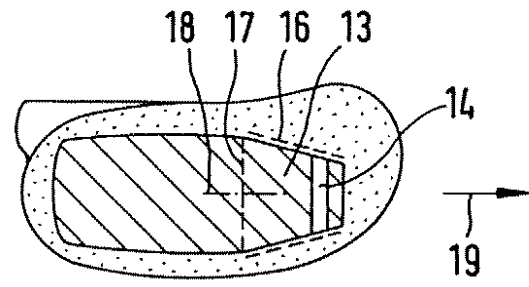
【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】



【図 2】



【図 3】

